

# レンズを通して

連載「十月」

写真・文 高円宮妃久子殿下



## アオミミハチドリ

13cm ハチドリ科

グアテマラからペルー、

ブラジル北部などに分布。林縁や

花壇などでさまざまな花から蜜を吸う。

一日で体重の半分もの食料を

確保しなければならず、蜜源で強い

縄張り性を発揮する。相手を

威嚇するとき、青紫の耳羽を立てる。



ルビート。バースハチドリ  
8cm ハチドリ科  
珍しい羽色で、とても華やか。  
ハチドリは長い舌を使って花蜜を吸う。



ルリボウシエメラルドハチドリ  
9cm ハチドリ科  
コロンビアの固有種。  
標高1,000〜2,000メートルで主に見られる。



# コロンビアのハチドリ

写真文 高円宮妃久子

今年ブラジルでサッカーのワールドカップが開催され、日本サッカー協会名誉総裁として日本代表の応援と地元の方々へのお礼の為に南米に行っていました。優秀な監督率いる素晴らしいチームでしたが、大舞台で思うような試合が出来ず残念でした。今後は新監督の下、どのように日本代表が成長するか、また将来を見据えた育成が進められていくか、楽しみです。

ギリシャ戦の翌日には、コロンビアの首都ボゴタに到着。スポーツ大臣のご案内で、コロンビアサッカー連盟のトレーニングセンターを視察しました。ボゴタが標高2,600メートルにあることを考えると、選手たちの強靱な身体能力の原点が理解できたような気がします。

コロンビアは緑が多く、上空から見ると山々の間から雲が湧き出ているようでした。それは湿度が高いことを意味し、森が青々としているのが印象的でした。世界で最も生物多様性の豊かな国のひとつで、最新のデータでは鳥は1827種、そのうち77種が固有種として記録されています。

ちょうど1年前、こちらで「再会を願って」と題して、カナダで撮影したアンナハチドリの写真をご紹介します。ハチドリのウロコ状に並ぶ羽が、玉虫のような虹色に輝くのは、光の屈折によるもので構造色といえます。陽があたれば、アンナハチドリのオスは、美しい口

ースピンの頭をしています。しかし、この日は生憎の雨で羽根の色は灰色。いつか再会を果たし、その美しい色が見たいと綴りました。

今回、コロンビアにて、快晴の空の下でいろいろな種類のハチドリに出会うことができました。レオノラさんという女性の「Enchanted Garden (魔法の庭)」にて、まさに魔法にかけられたような数時間を過ごしました。

ハチドリが好きな彼女は37年前に自分の庭の一角に砂糖水を入れたフィーダーを設置しました。現在は40個並んでいます。すべてのフィーダーを毎日洗浄し、砂糖水を一日3回入れ替えるのはかなりの重労働。ほかにもハチドリが好む花の咲く木をたくさん植えてあり、世界にいる365種の内、実に27種がこちらで記録されています。

ハチドリは鳥の中で最も体が小さく、ハチのような羽音をたてながら高速で羽ばたくので、近くにいるのがすぐわかります。この高速な羽ばたきはエネルギーの消耗が激しいのですが、軽い身体であることも必須で、エネルギーを体に溜めるわけにいきません。そこで、ハチドリはひたすら花を探し、蜜を吸い続けるしかないのです。このお庭は彼らにとっても「魔法の庭」。ハチドリの写真が撮れたのはもちろんうれしいのですが、やってくるハチドリを優しい眼差しで見守るレオノラさんとの出会いは実に心温まるものでした。



## ムナグロマンゴーハチドリ

11cm ハチドリ科  
西パナマから北東アルゼンチンにかけて広く分布。オスは全体的に緑。胸から腹にかけて黒く、その両脇に沿って青が目立つ。尾羽は明るい栗色と紫、先が青い。ハチドリの仲間は一夫多妻、巣作り、子育てはメスがする。メスは巣ごもり中に捕食者から見つかりにくいよう地味な羽色となる。写真の個体の頭には黄色い花粉がついている。